梅光学院学院長・梅光学院大学学長 樋口 紀子

「女性いきいき大賞」は今回で13回目を迎え、これまで472もの団体が応募して下さっています。

今回は応募団体が23団体と例年に比べて少なかったですが、どの団体もしっかりとした活動内容で、またその内容も今までにないユニークなものがあり、大変審査が難しかったと言えます。23団体のうち新規応募団体は12、再応募団体は11でした。再応募団体の中には活動人数が増えたところ、地域との連携が強くなったところ、活動の幅が広がった



ところ等、さらなる広がりを感じたことは素晴らしいと思います。1次選考では各分野を念頭におきながら14団体にしぼり、2次選考で優秀賞4団体を選びました。活動の継続性、地域への広がり、独自性、今後の可能性等が選考の基準となりました。優秀賞から最優秀賞を選んだのは例年通りですが、最優秀賞は審査が拮抗しました。また、最優秀賞に選ばれた「高齢社会をよくする下関女性の会」は以前、優秀賞に選ばれた団体です。過去に優秀賞を受賞した団体が最優秀賞に選ばれるというのも初めてのケースで、これが今年の特色の一つとも言えます。この団体は受賞後の広がりのある活動が評価されましたので、今まで賞を受けた団体も活動を継続すると共に、時代のニーズにあったものにしていくことによって再受賞も可能であることを証明したと言えます。奨励賞は地道に活動を続けてこられた団体で、今後の活躍が期待できる団体に対して2つの団体を選びました。また、学生の部での受賞団体は「YPU TFT project」としました。

最優秀賞、優秀賞団体の授賞理由は以下の通りです。

○高齢化社会をよくする下関女性の会(ホーモイ)(最優秀賞・山口県知事賞):地域づくり分野この団体は2008年(第2回)に福祉分野で優秀賞を受賞した団体です。その時は団体名の通り、健康寿命を延ばそうと高齢者に対する活動が主でした。その後、少子高齢化問題を活動の中心に置き、高齢者だけではなく、子どもの置かれた状況の学びを深め、地域活性化のために子どもの貧困の問題を解決することの重要性に気づき、子どもの支援から定期的に子どもたちに食事を提供する「生野きらきら子ども食堂」の活動にまで広がっているところが高く評価されました。賞を取った後も地域に必要な活動であれば何でも積極的に取り組むという姿勢がお手本になる事例だと思います。

○特定非営利活動法人 Nest (優秀賞・朝日新聞社賞): 子育て分野

子育てというと小さな子どもをイメージしますが、この団体は大人も対象にしているところが活動として新しいと言えます。特に、不登校、大人の引きこもり等にも対応しており、子育てというよりは「教育」です。また、フードバンクなど他の団体との連携も高く評価されました。この団体に光を当てることにより、このような活動の裾野を広げることができるのではないかと期待しています。

- ○全国生涯学習音楽指導員協議会山口支部 (優秀賞・yab 山口朝日放送賞): くらしづくり分野 活動している人数は少ないですが、活動の頻度と乳幼児から高齢者を対象とする幅広い活動が評価 されました。また、楽器も工夫をこらし、ガラスや地元の竹で作ることよって、音楽文化を地域に根 差すと共にそれを広げることで地域への貢献度が感じられました。音楽を通してくらしの中での「楽しさ」を推進していく活動をこれからも続けて行ってほしいと思います。
- ○わいわい山口ラフタークラブ(優秀賞・山口新聞社賞):福祉分野

参加者に「笑い」をもたらす活動というところが今までにないものとして評価されました。特に、年間 150 か所も施設を回っているということは、2日に1回活動を行っている計算になり、地域も県内全域を対象としているので、活動の影響力も評価の対象となりました。「笑い」は免疫力を高め、また認知症にも有効と言われているので、この活動をもっと広めてほしいと思います。

最優秀賞(山口県知事賞) 高齢社会をよくする下関女性の会(ホーモイ)

田中 隆子(地域づくり分野/下関市) 代表者

活動の動機・目的

代表が4人の親の介護と看取りを一人で背負ったことが引き金で関節リウマチになり、現在身体障 害 2 級になった。その経験から ①次世代の人たちには自分のような苦労はさせたくない。②人間は 一人で生きれないし、死ねない。③共に支え合う社会の必要性。以上のような「幸せな高齢社会の創 造」をめざしこの組織を立ち上げ、次のような目的で活動している。

- ①少子高齢社会の現実をしっかり見つめ、すべての人たちが自 立し共に支え合い安心して生きられる市民社会の創造を目指す。 ②少子高齢社会の諸問題を解決するための啓発活動を展開しな がら、学んだことを事業にむすびつける。
- ③今、私たちができることは何なのかを一人でも多くの人と学 び、活動したい。学びと実践を両輪として活動し、準備会も含 め 2019 年度で 20 年を迎える。



楽しそうなサロンの様子

活動の内容

①市民福祉講座

世の中の時流を見ながら、その時々でひとりでも多くの人と共に学んで共通認識を深め、私たち にできることは何なのかを探り、実践につなげていきたいとの思いで 16 年間継続して開催してい る。

②「介護予防のためのサロン」(月1回 第一土曜日)

高齢社会が進む中、高齢者問題や老人医療費、介護保険料への対応が急務となっている。これらを 維持可能にするためには健康寿命をのばすことが求められている。そこで『健康寿命をのばしまし ょう!』をキャッチフレーズに体力向上と健康づくり、閉じこもり防止と地域のコミュニケーショ ンづくりなど、介護予防を目指した活動として設立当時から展開している。

- ③時代のニーズに合った講演会・シンポジウム・調査研究
- ④広報活動(会誌発行・HP・サロンレポート発行・ブログなど)
- ⑤子どもプロジェクト

子どもを取り巻く環境をよくし、貧困の世代間連鎖を断ち切り「今、笑顔になれる社会」を構築 したいと思い子どもの貧困問題にかかわるため、2016年7月「生野きらきら子ども食堂」を立ち上 げた。子どもから高齢者まで集う地域コミュニティの場として運営している。

これからめざしたいこと

私たちは男女共同参画の視点ですべての活動を行っている。高齢者問題・子どもの貧困・どちらも 男女共同参画と切り離すことはできないことから、2016年度に子育て支援の一環として「子ども食堂」 を立ち上げた。これは女性の貧困のセーフティネットの一つだと思っている。今後は、中学校区を中 心にして、下関市全体に「子ども食堂」を作るお手伝いをすることによって、地域における子育ての 輪を広げていきたいと考えている。子ども食堂が地域の住民の核となり、まちづくりにもつなげてい けるよう努力していきたい。下関市が福祉施策のしっかりとしたまちになり、子どもから大人までこ こで暮らしたいと思えるまちになることがわたしたちの望みである。

優秀賞(朝日新聞社賞) 特定非営利活動法人 Nest

代表者 石川 章 (子育て分野/下関市)

活動の動機・目的

代表者は大学卒業後、自宅で学習塾を開業して様々な子どもたちに出会った。不登校や自殺行動、家出、虐待を受けている子、いじめ、そこでの体験をきっかけに1996年、「フリースクール下関」を下関市竹崎町からスタートし、2004年には同市生野町にも活動拠点を広げ、さらに幅広い活動を展開するに当たり、2007年11月に特定非営利活動法人Nest(ネスト)となった。

Nestには「巣」という意味の他に「居心地のいい場所」という意味がある。不登校・ひきこもり状態の青少年等に対し、自由・自治・個の尊重を理念とした安全で安心な居場所の提供とともに主体的な生き方の確立と自立のための支援事業を本人や家族等に行う。同時に、地域社会においても、不登校・ひきこもりの早期回復や未然防止につながり、さらにはあらゆる子どもたちが将来への希望を抱き、健全な育ちができる、より良き世間の再生に寄与することを目的としている。



活動の内容

①フリースクール下関

不登校・ひきこもり状態にあるこどもや青年たちが自分自身を 肯定することができる居場所の提供。原則として年齢制限はな く、小学生から大人まで利用者は1日十数人のフリースクール。 火・木はボランティアスタッフが来るが、個別対応できるよう に毎日開所し居場所を設けている。また義務教育期間内であれ ば、フリースクール利用日は学校への出席扱いになる。



- ②本人や家族に対する相談・訪問サポート活動を24時間体制で行う。また 家族支援としての例会やお母さんの会もそれぞれ毎月1回開催。不登校・ひきこもりの他、親子関係の問題、自殺願望、家庭内暴力など、相談内容は多岐にわたる。
- ③教育委員会・学校・児童相談所・保健所等の公的機関他、関連機関とも連携して支援活動を展開。
- ④講演会・サポート養成講座

不登校・ひきこもりへの理解を広く、また深めるための講演会や今年で15年目となったサポート養成講座は、当事者の心理状態や行動の理由、またそれに対する援助の仕方、関わり方について具体的に伝える内容で開催している。保護者はもちろん、支援者(教師・スクールカウンセラー・相談員・医師・民生委員・学生他)等これまでの受講者数は延べ2000名近くに及ぶ。

⑤平成28年度より、下関市委託事業として、週に1回、生活困窮世帯の子どもたちに対する学習 支援事業も行っている。学習指導は有償ボランティアとして、スタッフや学生が対応。月に1回は、 フードバンク山口等からの援助を受けて昼食交流会を実施。

これからめざしたいこと

最初は無表情でやってくる子どもたちが、自己肯定感を回復させて少しずつ変化していく。そして、自分の進む道を見つけて力強く踏み出していく。そんな子どもたちの姿をそばで見ることのできる幸せを感じながらも、本当は、こういう場所が無くなることを願っている。しかし油断すると、子どもだけでなく大人も孤独になってしまう今の時代。そんな時、誰かが声をかけてくれる人間関係が活発になる世の中になってほしい。みんな誰もが希望を持ち、夢を描き、自分らしく生きていきたい気持ちを持っているはず。それぞれを認め合える居場所がここだけでなく、あちこちに点在するようになるといいと思う。そんな思いをもちながらここを継続していきたい。

優秀賞(yab山口朝日放送賞) 全国生涯学習音楽指導員協議会山口支部

代表者 阿部 恭子(くらしづくり分野/山陽小野田市)

活動の動機・目的

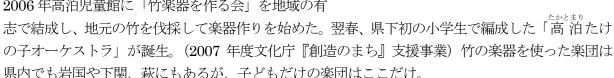
自分にできる音楽を通して、地域の文化振興への貢献を考え、以下の目的で活動している。

- ○生涯学習音楽指導員の相互交流と資質の向上・活性化を図るとともに、生涯学習音楽指導員の社 会的評価と基礎づくりを促進することを目的とする。
- ○生涯学習の視点にたって、子どもから高齢者にいたるまで、地域住民の幅広い音楽学習ニーズに きめ細かく対応し、地域の音楽文化・教育の進行と発展に寄与することを目的とする。

活動の内容

- ①ガラス楽器アンサンブル活動への依頼(月に2回程度 練習) 現代ガラスの発展で名高い山陽小野田市の地 域文化の一環として、ガラス楽器アンサンブル活動 (2008年度文化庁『創造のまち』支援事業で発足) を立ち上げた。
- ②高泊たけの子オーケストラ

2006年高泊児童館に「竹楽器を作る会」を地域の有



- ③「おんがくであそぼう」(0歳児から2歳児と保護者対象) 平成22年度よりはじまり、平成28年度まで自主事業として行なった「おんがくであそぼう」は、 山陽小野田市子育て支援課のイベント講師として平成30年6月より依頼を受け活動している。毎月 1回。親子が常時30組参加。わらべ歌や音楽と一緒に体を動かして楽しんでいる。
- ④「0歳からのファミリーコンサート」と「休日昼下がりのティータイムコンサート」 山陽小野田市と共催で、今年の12月で45回目を迎える。年に5~6回開催。 毎回、プロの演奏者を招き、午前中を「0歳からのファミリーコンサート」として、赤ちゃん連れ で、「泣いてもいいよ」「おしゃべりしても大丈夫よ」とプレイマットの上に座って親子で楽しむ。 午後は趣を変え、未就学児の入場は遠慮していただき、お茶やお菓子付きで「休日昼下がりのティ ータイムコンサート」を開催。
- ⑤アラ環フェスティバル

演奏する人も聴く人も「アラ還」中心のコンサート♪青春 時代の懐かしい曲満載。10組前後のバンドが出演し、実行 委員会と多数の当日スタッフで盛り上げる。

⑥国際音楽の日記念事業コンサート 山陽小野田市を元気にするために生まれたコンサート

『生きる』プロの演奏家と山陽小野田市で生まれ育った仲間たち(竜王太鼓保存会、山陽小野田少年少 女合唱団、創作楽器のコラボレーション)がともに作り上げる舞台。2017年度11回目を開催。

これからめざしたいこと

未来を担う子どもたちのすこやかな成長を一層応援したい。地域で頑張っている音楽団体やダンスチ ームで造る"夢と希望を発信する音楽舞台"『キッズ・ミュージックフェスティバル』の開催。



『生きる』フィナーレ

優秀賞(山口新聞社賞) わいわい山口ラフタークラブ

代表者 重宗 美智子(福祉分野/山口市)

活動の動機・目的

2008年当時、ギックリ腰になった事務局が、興味を持って笑いヨガ(ラフターヨガ)リーダー資格を大阪で受講。体調も悪く、気分も乗らず、理由もなく笑えないと思いつつ1日を終えた。「向いてないな」と思い、翌日は受講せずに山口へ帰るつもりで落ち込みながら就寝。が、その日19時から翌朝7時まで一度も目覚めず起床。それまでは、寝返りのたびに腰が痛み安眠できなかったのにとびっくり。起きた時の気持ちもスッキリして普通に歩ける。これが「笑い」の効果かと半信半疑ながらも実感。自分の体験、効果

をぜひ伝えたいと、最初は一人で高齢者施設を訪問

したり体験会を実施し賛同者7~8人で会を立ち上げた。

「笑いヨガ」という笑いを用いたエクササイズによる健康体操の普及を通じ心身の健康づくりと福祉の増進を目的とし、笑いヨガを県内すべての老人施設などに普及していきたい。

活動の内容

①県民がだれでも気軽に参加でき、楽しく笑って健康になる

場を提供。平成22年4月から現在まで、山口市内でほぼ毎月1回定期的に笑いヨガ体験会を実施。

②医療機関や高齢者施設などと連携して笑いを健康増進や介護予防に活用している。

クラブ会員が、講師として講演・訪問している。高齢者施設訪問は、年間延べ150か所以上。

【笑いの効果は・・・】

○高齢化や孤立化、介護予防や予防医学への効果的で経済的な解決法のアプローチの一つとして、介護事業だけでなく、教育現場でも実践されている。また、大学教員や医師が研究テーマとして笑いに注目するケースも増えている。健康増進、職場のメンタルへルス、レジリエンス(折れない心の育て方)等を効果的に、しかも経済的に実践できる笑いヨガの必要性はますます高まりつつある。



ヨガ体験会の様子

みんなで笑って笑って

- ○グループホームなど高齢者施設へ行くと、その時に応じたエクササイズをすることで徐々に笑える。 また、大変な仕事をされている施設職員さんの笑顔も同時につくることができる。笑うことで仕事への モチベーションもアップして、利用者へ笑顔で対応することでお互いにいい関係ができてくる。
- ○道具も特別な場所も必要無い。身体一つ、車いすの人もでき、食事会の席でも構えずにできる活動。わっはっはと笑うことで、「声門」が開き肺の中のよどんだ空気が出ていき、きれいな空気が入ってくることですっきり。笑う心の余裕がない時でも「にもかかわらず笑う!」ことできっと Happy♪

これからめざしたいこと

- ○現在は、高齢者の施設訪問が多いが、これからは、教育現場や親子(母子)教室などで保護者と子どもたちにも笑いョガを伝えていきたい。自分と他者だけでなく、自分の内側とも、より良くコミュニケーションできるツールとして笑いをご紹介していきたい。
- ○2019 年 7 月 27 日 17 時~18 時、第 1 回日本統合医療学会中国ブロック大会にて、笑いヨガの講演会が開催されます。

コープやまぐち奨励賞 ままとおん♪

代表者 藤原 真里子(子育て分野/山口市)

活動の動機・目的

「子どもとママといっしょに音楽を楽しもうね」を合言葉に、音楽が好きなママと子どもが、トーンチャイムを演奏しながら育児と音楽を楽しみたいと結成。

トーンチャイムという楽器は教育現場や音楽療法等で用いられ、小さな子どもからご高齢の方まで一緒に演奏することができ、また演奏する側だけでなく聞いてくださる方々にも癒しとなる。トーンチャイムを一つのきっかけとし、多世代交流の場や生の音楽を体験する場を作ることを目的としている。

活動の内容

- ○2018年は14回の公演。年々、口コミで増えてきている。
- ①年3回、山口県児童センタープラネタリウムで「ままとおん♪プチコンサート」を実施 プラネタリウムならではの星座や様々な映像をつくり、見ても楽しいコンサートを実施。子どもた

ちの演奏の機会を設ける。参加可能なお父さんにも協力 を仰ぎ、日ごろの活動を見てもらう場となっている。

- ②市内子育て支援施設や幼稚園へ訪問コンサートを実施 小さな子どもも一緒に楽しめるように、ペープサートや パネルシアターを作り、物語仕立ての音楽やフルートや クラリネット等様々な楽器とのアンサンブルや実際にトー ンチャイムに触ってもらい即興の演奏などの体験も行う。
- ③老人福祉施設への慰問コンサートを実施 子どもたちも、ハンドベルや鈴などを持って演奏に加わっ たり、手話を披露したり、手作りプレゼントの配布や歌に 合わせての肩たたきなどを行ったりしている。



トーンチャイムの演奏

④児童発達施設利用者を対象にしたコンサートを実施 演奏を聴いて楽しんでもらうだけでなく、歌を一緒に歌ったり、鈴やトーンチャイムなどの楽器を 実際に触れて演奏してもらうことで、みんなで協力する楽しさを味わうとともに、頭や体を使う機 会となっている。子ども同士の交流の場になっている。

これからめざしたいこと

楽譜が読めなくても、またトーンチャイムに触ったことが無くても誰でもできるものなので、新 しいメンバーを加え地域からの認知・理解をしてもらい、より活動の幅を広げていきたいと考える。



コープやまぐち奨励賞 素浪人塾

代表者 福田 寿美子(地域づくり分野/岩国市)

活動の動機・目的

2006 年 11 月から 2008 年 3 月まで、公民館活動においてスローライフに興味のある一般成人を対象に様々な講座が開催された。

講座内容は、熊手・布草履・排油利用の石鹸・豆腐・ほぼろづくり(わらで編んだかご)や竹の利活用・土づくり・農作業中の事故・シマミミズで堆肥等の講義、また、ロープワーク・茶道の実習等 多岐にわたった。

講座終了後、継続を希望する受講生が、のんびりと充実した生活を楽しんで送るスローライフをめずし、自主活動グループ「素浪人塾」を結成した。

会員相互の親睦を深めながら、耕作放棄地の利活用と地域との交流を図る目的をもって現在に至る。

活動内容

- ①3ha の畑に小麦、大豆、さつまいも、ジャガイモ にんにくなどを植え、収穫している。竹チップで 堆肥作りを始めた。
- ②大豆を栽培し味噌作りやひしおづくりを実施。
- 味噌は2月に3日間かけて、180kg 程度仕込む。

できた味噌は会員で分けるほかに、畑や駐車場の地主、門松用の竹をくれる人などにお礼として差し上げている。



灘小学校でホタル籠づくりの指導

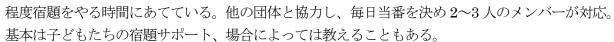
小麦の脱穀

③小麦「せときらら」を栽培しパン作り。その時の麦わらで小学生に「ホタル籠づくり」の指導及び 伝統行事精霊流しの藁船の材料に提供及び灯篭づくりに

参加、協力している。

- ④一年に1回、会員全員でマイクロバスを使って研修旅行。
- ⑤農機具の扱いの慣れた男性会員が講師になり、全員が使えるよう3か月間を目安に養成している。
- ⑥灘小学校児童への放課後の宿題サポート

放課後教室に行ってない高学年の子どもたちを対象に、小 学校のコミュニティルームを使って、月曜から金曜日 30 分



- (7)

 灘小学校、夏季休業中の花壇水やりボランティアの実施
- ⑧中洋小学校・灘中学校へ年末に門松の指導
- ⑨公民館活動「展示発表会」での「スローカフェ」の実施。手づくりクッキー付きコーヒーの販売及び小麦「せときらら」の普及活動。

これからめざしたいこと

会員のスローライフを楽しむために始めた会だが、地域とのかかわりも増え、他の団体と一緒にできる行事も大事にし、ホタル籠や精霊流し、門松づくりは、日本の伝統文化として子どもたちに伝えていきたい。

コープやまぐち奨励賞・学生の部 YPU TFT project

代表者 井上 沙織(くらしづくり分野/山口県立大学)

活動の動機・目的

世界の資源は有限であり、私たちは食べ物を分かち合って生きている。先進国では有り余る食品があり、肥満や生活習慣病に悩む中、途上国と言われる国では栄養不足、貧困、飢餓に苦しむ人がいる。そのような食の不均衡を食を通じてなくしていきたいという思いから、TABLE FOR TWO(二人の食卓)として活動を行っている。特に、私たちは学生だからこそできる活動により食の問題に取り組んでいる。

※TFT・・・2007 年、日本初、世界の食糧問題の解決に取り組む「特定非営利活動法人 TABLE FOR TWO International」東京本部が設立された。2009 年、TFT を支援している大学生による学生団体「TFT UA」が設立され、主に大学の学生食堂への TFT 導入をめざし、全国の大学へ活動の輪を広げようと活動中。2009 年 12 月より山口県立大学の学生有志により、学食へ TFT を導入。(中四国の国公立大学で初)

活動の内容

①TFT ランチの提供

※TFT ランチのしくみ・・・学生の考案した TFT メニューを 購入すると、1食につき 20 円が寄付される。20 円は、開発 途上国の給食1食分。学食でメニューの1食をとるごとに、 開発途上国の子どもに1食が贈られるという仕組み。

・大学の学食にて、年に2~3回開催

春ランチ: 「担担麺・苺ムース」 2250 円寄付 夏ランチ: 「ビビンバ丼」 1420 円寄付

・10 月消費者庁主催で開催された「エシカル・ラボ in 山口」では、山口県の地酒≪山頭火≫と長門の≪ゆずきち≫を使ったプリンを試食してもらい、【地産地消】【途上国支援(国際協力)】の視点でTFT ランチについて広く知ってもらう機会とした。

・11 月大学祭で、考案した地元の食材を使用したデザートや、フェアトレードチョコレートやコーヒーを販売。

②出前ワークショップの開催

夏休み小~大学生を対象にチョコレートの原料カカオ豆に かかわる人たちの暮らしを体験するワークショップを開催。

③おにぎりアクションに参加

※おにぎりアクション・・・決まった期間中に自身の SNS に特定のキーワード付きで写真を投稿すれば、1 枚で 5 食分の給食(約 100 円)がアフリカやアジアの子どもに届く。寄付金は協賛企業が払う。企業にも社会貢献活動を PR できる利点がある。

- ・YPU TFT project も、積極的に参加するとともに、SNS などで発信し参加を呼び掛けた。
- ④外部団体とのコラボでイベントを開催

2019年1月、JA 周南や山口市内のお店と協力して「Yamaguchi For Two」を開催。海山の自然に恵まれた山口県の質の高い食材で作った TFT メニューで食事を提供。

これからめざしたいこと

山口の学生から山口の人や世界の人々へ発信できる、国際協力の形があることを知ってもらいたい。 今日食べたもので、世界の誰かを救うことができるかもしれない、そんなきっかけを山口県にたくさん ちりばめていけるように頑張っていきたい。



コープやまぐち組合員賞 すこやか夢農園

代表者 岡山 幸子(地域づくり分野/柳井市)

活動の動機・目的

県外生活が長く、退職後、久しぶりに地元伊陸に帰ると、昔に比べ荒廃した農地、山林、空き家が増え、中学校は廃校、子どもたちは減っていた。豊かで楽しく暮らしやすい里山づくりをめざし、空き家をリフォームした。ここを交流拠点として、自然を保全して、未来に繋げていく責任感を覚え、故郷伊陸にご恩返しの活動をしたいと願った。

- ・世の中の役に立つ仕事や、自然の保全活動を通じて、子どもたちと未来につなげていく活動をする。
- ・故郷の縁に支えられたご恩返しの市民活動団体を5年前に同窓の仲間たちと立ち上げた。
- ・老いも若きもみんなで一緒に郷土食を食べる。地域伝統野菜や行事、里山での遊びを通じて、自然の役割りや大切さを未来に繋げていく。町おこしイベントや、参加型の講演会、子どもたちと畑で農業体験をして、収穫野菜を一緒に調理してみんなで食べる。そのような子ども食堂を開催する。

以上を目的とする。

活動の内容

- ①「地域」と「人」「食」をつなげるネットワーク事業
- ②「農業女子」のネットワークづくり支援
- ③自然再生及び環境保全活動
- ④里山保全のための自然観察会や体験活動、里山整備、学習支援 体験催しなどのイベントを企画。年8回位、計画的に開催。
- ⑤子ども食堂の取り組み
- ・毎月第三日曜日(夏休み期間は不定期)幼児~高校生を対象と した無償の子ども食堂を開催。
- ・講演会や、コーラス、コンサートLive、ボードゲーム、木陰での夏休みの宿題など、催しを企画。
- ・県内で生活する老いも若きも子どもも参加できる。
- ・一緒に畑を耕して、収穫野菜をみんなで調理して楽しく食べる。この際、お弁当も作って地域の方々に 20 食程度配食している。

これからめざしたいこと

- ・女性が輝き、夢と希望を持って地域活動をして、いつまでも住み続けたいと願い、夢がかなう里山 にしたい。
- ・里山伊陸のすばらしさを見つけて、それを活かして守っていきたい。
- ・子どもたちのために、より良い文化環境と、里山で自然に親しむキャンプや読み聞かせ会、森林 資源を活かしたものづくりに取り組んでいきたい。
- ・『地域の人々がつながる拠点づくり』『子ども食堂』 と『弁当づくり』を充実させる。
- ・地域の食材を活かした食事の提供と、身の回りの 困り事に対応する生活支援事業が柱になる NPO法人「夢すこやか☆老いも若きも子ども食 堂」を5月に設立予定です。





コープやまぐち組合員賞 外入 (とのにゅう) サロン

代表者 柳原 春美(福祉分野/周防大島町)

活動の動機・目的

始まった当初はIターンされた方と地域の人々との交流のため活動を開始。たくさんできる野菜がもったいないからと食材持ち寄りで開催したのがはじまり。

活動の内容

はじめられた方が転居された後は、独居のお年寄りに声をかけて毎月1回サロンを開催している。町の保健師や栄養士による血圧測定や健康に関するお話や相談も実施。自治会長には地域や町の話をしてもらうなど、毎月内容を変えるようにしている。

昼食は、メンバーが持ち寄った食材、米や野菜で作ったものを食べながら、皆で楽しい時間を 過ごしている。漁師をされている自治会長が、毎回新鮮な魚を差し入れしてくださるので、品 数が多くできて、栄養満点と参加者に喜ばれている。食後はコーヒーやお菓子、楽しいおしゃべ りでゆっくり過ごしている。独居の方ばかりなので、月に1回、人と会っておしゃべりするこの 会を皆とても楽しみにしている。

毎年8月は近くの保育園からのお誘いで、園児・学童・お年寄りでゲームや食事を楽しむなど 地域全体で交流している。

メンバー最高齢は94歳の女性。寒天を使ったデザートや煮豆などを手作りして持ち寄ってくれる。参加者はもちろん、作る本人も毎回楽しみで生きがいになっていると話している。

参加者は、毎回80歳以上の独居女性20人から25人程度。

これからめざしたいこと

周防大島町は、山口県南東部で瀬戸内海に浮かぶ屋代島すべての町で、外入は屋代島の中央 安下庄湾の東に位置します。島の高齢化率は48パーセントを超えていますが、お年寄りが大変元気な「生涯現役の島」「長寿の島」と呼ばれています。

外入に住む皆さんも、この会に参加することで、家にこもらずみんなと食事しながら楽しい時間を 過ごしていただき、いつまでも家で元気に暮らせるように、私たちもお役にたち、皆が楽しみにして いるこの会をずっと継続していきたいです。



コープやまぐち組合員賞 世界青年徳山友の会

代表者 茅原 正春(地域づくり分野/周南市)

活動の動機・目的

1969年文科省の事業として、徳山市教育委員会が交流事業を開始しドイツ青年を受け入れ徳山市内の青少年たちとの交流を始めた。その後、毎年2回程度オーストラリア・アメリカ・イギリスを中心とした国々との交流が始まった。その折、一般市民から実行委員を募り幅広い市民国際交流活動となり始めたことをきっかけに、徳山市教育委員会から、1987年に市民団体として引き継がれ、民間の団体「世界青年徳山友の会」が発足し、初代会長として現在の代表が就任し活動を開始。

- ・国際化する社会の中で真の国際交流とは何かを考え、家族 的な交流をモットーとし、海外を身近に感じることのできる 国際人として社会に貢献する。
- ・青少年育成のための交際交流、国際交流を通じて地域の活性化、国際貢献ならびに国際協力を目的とする。

活動の内容

①青少年および成年指導者の育成のための国際交流を肌で 体験することにより異文化を理解する。そのための海外 青年・成年指導者の受け入れによる体験(年2回程度)。 最近は、徳山高専留学生を招き、地元住民(子どもから高 齢者)と一緒に『あなたが主役、知らない世界を「見ちゃ ろう・聞いちゃろう・ヤッチャロウ」』を開催。今年7月は、 午前中は留学生が PPを使い母国を説明する『お国自慢』。 昼食は参加者がそれぞれ持ち寄った家庭料理。午後からは、 日本の文化に触れてもらおうと川柳やカヤの葉を使ったバ



見ちゃろう・聞いちゃろう・ヤッチャロウ

食後のディスカッション

- ッタづくりを行った。日本の浴衣を着たファッションショーも喜ばれた。50人以上の参加。1994年から継続している。
- ②JICA 青年研修事業受け入れによる国際協力及びボランティア活動(毎年申請し実施・過去 21 回実施) 市内でホームステイをさせるためホストファミリーを募り紹介し自らも家庭でもてなす。
- ③山口県国際交流協会事業協力実施

ホームステイやお世話をした各国の人たちにもらった民族衣装や小物、約3千点を、イベント時や 学習の折には貸し出しを行っている。

④熊毛こども夢まつり、公民館活動協力実施

2005年より「世界の国からこんにちは」というテーマで、国際交流で得たもの(民芸品等)を子どもたちに提供し試着や体験してもらい、いろんな国(開発途上国から先進国)の現状を子どもの立場で少しでも関心を持ってもらっている。毎年、熊毛中学校の生徒がボランティアで参加し交流を図っている。また、自分たちだけの団体でなく山口モンゴル友好協会のモンゴル占いや JICA の展示を行い、来場者に喜んでもらっている。

これからめざしたいこと

- ・この活動を末永く継続し、次世代に引き継いでくれる人材の育成。
- ・食文化の交流において、今後、参加国のみなさまに「それぞれの国のグルメ」を作り交流を実施したいと考えているところ。